

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 210

日本野鳥の会 埼玉県支部

三宅島2000年噴火とエコツーリズム

(財)日本野鳥の会サンクチュアリセンター

三宅島自然ふれあいセンター アカコッコ館 山本 裕

◇2000年噴火の自然への影響

日本野鳥の会埼玉県支部では1988年以来、毎年春に三宅島での探鳥会を実施されているので、島の自然には馴染みのある方が多いのではないかと思います。

夜10時過ぎに船に乗り込み、早朝、三宅島に降り立つと、まず聞こえてくるのがイソヒヨドリやウチヤマセンニュウのさえずりです。次いで森へ出かけると、イイジマムシクイやアカコッコ、オーストンヤマガラなどの伊豆諸島を代表する野鳥たちが私たちを迎えてくれます。三宅島は別名“バードアイランド”と呼ばれるほど鳥の密度が高く、身近に鳥が観察出来る場所です。2000年噴火前には関東周辺を始めとして各地からバードウォッチャーが島を訪れていました(写真1)。

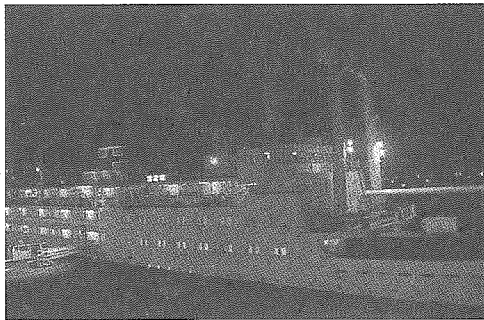


写真1：三宅島へと向かう定期連絡船(1999年5月17日)夜、竹芝桟橋を出発し、早朝、三宅島に到着する

この野鳥の楽園に約17年ぶりの火山活動が始まったのは昨年6月のことです。今回の噴火は古文書に最初の噴火記録のある1085年から数えて15回目の噴火となります。

火山活動は何の前触れもなく突然始まりました。9月4日に全島民が避難する時までに、地表へのマグマの流出こそないものの、7月8日の山頂噴火

と山頂の陥没、7月14、15日、8月10日、8月18日及び8月29日と立て続けに噴火が起き、粒子の細かな大量の火山灰が火口から噴出しました(写真2)。

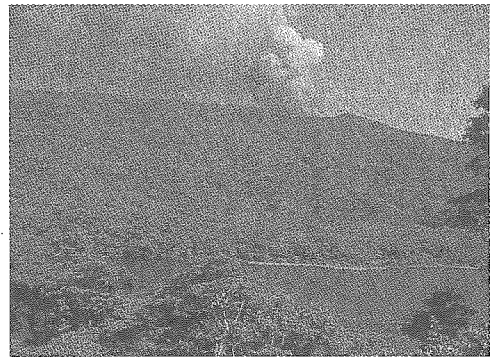


写真2：全島避難時直前の大路池(2000年9月3日)薄らと灰に覆われている。

一連の噴火では、メジロ、イイジマムシクイ、カラスバトなどの死体が確認された他、ヒヨドリ、カワラヒワなどが灰まみれになった状態で保護されました。

7月8日夕方の噴火では、山頂部に広がっていた八丁平カルデラ(南北1.8km×東西1.6km)で大規模な陥没が起こり、カルデラ内に広がっていたハチジョウイヌツゲやハチジョウススキなどが自生する草原と特異な火山地形が失われました。山頂の陥没は約2500年ぶりの出来事と言われています。八丁平は4月下旬から8月にかけて渡来するウチヤマセンニュウの島内有数の繁殖地で、個体群へ大きな影響が出たものと考えられます。火山灰は夏季の卓越風である南西風によって、島の北側から北東側にかけての森林に降り、島の約1/4の面積が灰に覆われました。灰は樹木の葉や枝に付着し、その重みで枝が折れたり、倒木などの被害が出ました。7月下旬からは山腹に積

もった灰が雨によって流され、主に島の東側や北東側の森林で泥流が発生しました。8月18日の大噴火では島全体が灰で覆われ、8月29日の噴火では低温の火砕流が発生するなど、野鳥の生息地として大切な森林が失われています。現在は山頂付近にはほとんど樹木がなく、山麓を中心に森林が残っています（写真3）。

山頂付近の植生が回復するには、しばらく時間がかかるものと思われます。



写真3：三宅島遠景（2001年5月11日）山頂付近にはほとんど植物がなく、山麓にまとまって緑が残されている。

◇火山ガスによる影響

昨年9月以降は、火口からの火山灰の噴出はほとんどなくなったものの、大量の火山ガスが放出されるようになりました（写真4）。



写真4：阿古林道付近の様子（2001年6月16日）手前は1983年噴火の際に流れ出た溶岩。遠方は火山ガスのためにかすんで見える新澤池跡地。

火山ガスの放出は今なお継続しており、一日あたりの火山ガスの量は1～3万トンと世界的にも稀な量です。こ

うした火山活動による野鳥や自然への影響調査が、現在東京都により行われています。アカコッコやイイジマムシクイといった貴重な野鳥に加えて、オーストンヤマガラ、モスケミソサザイ、ミヤケコゲラ、タネコマドリといった伊豆諸島南部の島々を特徴づける4亜種への影響が心配です。

火山ガスの風下になることの多い島の東側と北東側、南西側の森林ではスギなどの針葉樹で枯死や葉の変色が見られています（写真5）。



写真5：「三七山」付近の様子（2001年6月16日）茶色く変色しているのがスギ植林地。

常緑広葉樹でも葉が落ちたり、幹から直接、葉が出る「胴吹き」と呼ばれる現象が起きています。山麓では島の南側と北西側には比較的まとまって森林が残っていますが、今後火山活動によって影響を受けた野鳥の個体群が回復していく過程では、この残された森林が種の供給源として重要な役割を果たすことになるでしょう。今残っている森林を手つかずでできる限り広い面積で保全していくことが必要です。

◇残された自然とエコツーリズムの可能性

今後、火山活動が収まり、島の復興を考えていくうえで大切になるのは、今残っている自然を軸にした観光です。残っている島の自然を見に訪れる人々がどれだけ島の経済に寄与するかに島の将来はかかっています。

2000年噴火以前の自然観光の主要なテーマは、「野鳥」と「海」でしたが、新たに「火山」が大きなテーマとして取り上げられることと思います。さらに、三宅島の伝統的な文化として知られている「三宅太鼓」や食文化として成り立っているアシタバやクサヤ、テングサなどの産業が、将来の三宅島観光を彩ってくれるでしょう。その際には大規模な観光ツアー（マストゥリズム）ではなく、地域の自然や文化を守りつつ、有効に活用していく「エコトゥリズム」の概念に則った小規模のツアーを誘致していくことが、三宅島の成功につながっていくことと思われます。このエコトゥリズムを実践していく上で大切なのが、

- ①プログラムが参加者にとって楽しく、かつ有意義であること
- ②三宅島への経済的なメリットがあ

ること

- ③三宅島の自然の価値を訪問者と地域住民の双方が理解していること
- ④科学的な調査・研究に基づいた自然資源の管理と情報提供が行われていること
- ⑤エコトゥリズムの対象となる野生生物とその生息環境が保護されていること

といった5項目です。

現在は、島には戻れない状況が続いていますが、この5項目がきちんと実施できるような仕組みづくりを今のうちに進めて置く必要があります。私たちは、そのための努力を惜しんではなりません。そして、一日も早く元のように静かな島になり、多くのバードウォッチャーがまた三宅島を訪れる日が来ることを心から願っています。

はみ出し行事案内

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：11月8日（木）

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後6時ごろを予定。

費用：4,000円の予定（バス代、高速料、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。

定員：20名（先着順、県支部会員優先）。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、中村榮男

まで。

担当：中村（榮）、櫻庭、新井（良）、赤坂
見どころ：早くも初冬の装いとなった奥日光。カラ類、アカゲラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ツグミ、マヒワ、アトリなどの冬鳥のあのかわいい姿を求めて、光徳牧場から逆川・湯川沿いに戦場ヶ原を抜けて、赤沼までの約7kmを歩きます。しっかりした足拵えと、お弁当や雨具・防寒具の用意もどうぞお忘れなく。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：11月10日（土）～11月11日（日）

集合：10日午前9時15分、JR長野駅西口（善光寺口）駅前広場。

交通：「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50着）、または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57着）。

費用：10,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、支部会員優先）。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、参加回数を明記して、小池一男

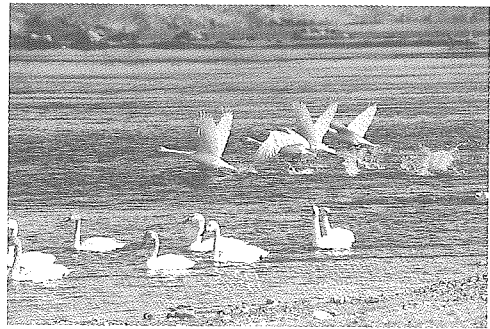
まで。

担当：小池（一）、小池（順）、岡安
見どころ：白馬の秋、アフターの温泉等々。
ご注意：◆初参加の方歓迎です。申し込みはがきに初参加を明記してください。
◆宿泊は男女別の相部屋です。個室はご用意できません。

2001年 ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本年は1月13～14日を中心に調査が行われました。昨年は悪天候で十分な調査ができませんでした。今年はほとんどの調査地のデータが得られました。10年ほど前までと比べて、昭和池や武蔵丘陵森林公園で数が減っているのが目立ちますが、その他は大きな変化は見られません。吉見町の大沼は工事のため記録がゼロとなっています。種数は18で例年並みです。調査にご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。(森本國夫)



(川本町にて 山内 元)

調査地	入間川	荒川	荒川	荒川	古利根川	古利根川	利根川	遊水地	渡良瀬	調整池	小畔川	新河岸川	百穴湖	武蔵丘陵森林公園	公園	県立農林	昭和池	古墳	さきたま	白幡沼	柳瀬川	黒浜沼	元荒川	元荒川	公園	見沼自然	
調査範囲	豊水橋、新富	田橋、鉄橋、戸	荒川、鉄橋、戸	一調池、荒川第	戸郷、大橋、明	舟橋、堂面橋	藤塚橋、古利	坂東大橋下流	貯水池	池全部	川崎橋、登橋	大沼	吉見町	清川町	川本町	久喜市	行田市	浦和市	志木市	富士見市	蓮田市	白蓮町	岩槻市	浦和市	園内の池	種別合計	
市町村	狭山市	戸田市	戸田市	熊谷市	松伏町	越谷市	本庄市	北川辺町	川越市	川越市	吉見町	清川町	川本町	久喜市	行田市	浦和市	志木市	富士見市	蓮田市	白蓮町	岩槻市	浦和市	園内の池	種別合計			
コハウ				146																						146	
オンド																				1							1
マガモ	2		66	75			100	965	15	11			1,182	173	549	650				2	1	2			2	3,795	
カルガ	39		86	33	41	131	164	1,860	11	174				115	104	379	130			36	61	187	118	54	3,723		
コガモ	88		130	58	66	167	693	360	258	130				21	119	177	360	3	235	78	278	102	109	3,432			
トモエ		10		1										9	1	22										43	
ヨシガ			12				11	2						2		5										32	
オカヨ	41		80			29	126	33						1	29											339	
ヒドリ		78	274		141	183		1,197	36	224				2		120				191				67		2,513	
アマリ			1																							1	
オナガ	2	1	67	800	192	4	78	216	50	118				1	57	351	20	55	46			43	57	100	2,258		
ハシビ	11		14			4	2	40	9					17	7	18	7	1	7				48	22		207	
ホシハ	1	6	174	54			8	1						5	258	352		4	1						15	879	
キンタ	1		57				67	24							123	164		3								439	
スズガ																	2									2	
ホオジ			1	3				1																		5	
ミコア			16					44						2	3											65	
カラア							12	45																		57	
カモ								1,488													2					1,490	
種 類	8	4	13	8	4	6	10	13	6	5	0	11	10	11	5	5	8	3	5	5	5	5	5	5	5	18	
調査地	185	95	978	1,170	440	518	1,261	6,276	379	657	0	1,357	874	2,139	1,167	66	521	140	558	366	280	19,427					
調査者	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	3	3	1	2	2	2	29	

シラコバト調査にご協力を!!

日本野鳥の会埼玉県支部 シラコバト見つけ隊

めっきり秋らしくなり、シラコバトの繁殖も一段落となったようです。これからは刈り入れ後の田圃や畜産農家に集まり始め、その姿を見つけ易くなってきます。

皆様からの観察報告は現在1000件を越え、観察エリアも西は熊谷市、北は栃木県佐野市、大平町など、第3次メッシュにして271にのぼります。

シラコバト調査も本年12月末をもって一つの区切りとし、報告書をまとめる作業に移ります。

残りの3ヶ月間、皆様のフィールドノートに埋もれていたり、新たに観察したシラコバトの情報を支部宛に報告をお願いいたします。報告は観察報告だけでなく、営巣行動や繁

殖について、また、気が付いた行動様式など、シラコバトについてなら何でもかまいません。特に次の地域の報告をお待ちしています。

◎川口～桶川間の市街地や荒川左岸の地域

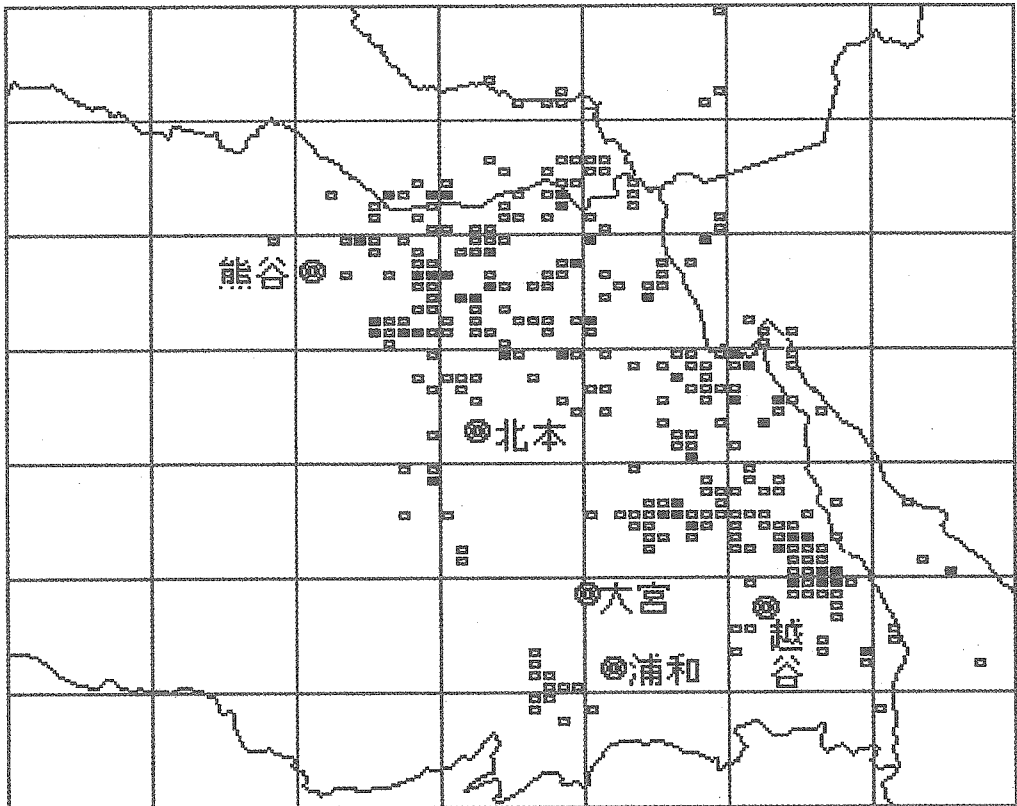
◎羽生、騎西、妻沼地域

◎熊谷周辺から北部・西部地域

◎見沼田圃東岸（大宮、岩槻、浦和、越谷）

◎草加市、八潮市、三郷市

報告書は支部事務所へ FAX か郵送でお願いいたします。また、インターネットの支部ホームページから Excel ファイルの様式がダウンロードできます。メールをお使いの方は添付ファイルでお送りいただいても結構です。よろしくをお願いいたします。



シラコバト生息分布（2001年7月末集計分）

■ 1件の報告で10羽以上
□ 10羽未満

岩槻市長宮 ◇9月号野鳥情報掲載の川通公園(工事中)で繁殖していたコアジサシ情報の続報です。7月13日午後1時頃、猛暑の中、コアジサシのヒナ9羽を確認。7羽は土盛りの草かげにいた。すでに巣立っていった幼鳥も5羽ほどいる。7月16日午後1時頃、コアジサシのヒナ5羽確認。7月19日午後1時頃、コアジサシのヒナ3羽確認、あと1羽死んでいる様子。7月24日以後はヒナの姿を確認できず。すべて巣立ってくれたのならうれしいのだが。結局、岩槻市は工事を1ヶ月延期してくれた(鈴木紀雄)。

岩槻市大口、大谷 ◇7月14日午後6時頃、アシ原を数百~千羽のツバメが広く飛んでいた。埒入りか(鈴木紀雄)。

岩槻市増長 ◇7月16日午後2時頃、休耕田でジシギ類2羽。飛んだ際、翼下面暗色、次列風切先端の白帯が見えなかったのがタシギではなかった。7月26日午前10時頃、道路脇の休耕田でジシギ類1羽発見、じっくり観察。全体にオオジシギほど淡色でなく茶色味がある。側頭線ははっきりしているが、頭央線はクチバシ基部に達していない。眉斑は目の前で幅広く、目の後ろでぼやけている。目は、ハリオシギほど大きく見えない。クチバシはタシギほど長くなくハリオシギほど短くない。過眼線は、目より前で太くない。肩羽の羽縁は内縁、外縁とも淡色で内縁も外縁ほどでないが、幅を保っている。初列風切がほんの少し三列風切より出ている、初列風切のP10とP9の間が狭くなかった。尾羽がオオジシギほど



(ホオジロ 手塚正義)

三列風切より出ているようには見えなかった。以上のようなことからチュウジシギと判断した(鈴木紀雄)。

岩槻市尾ヶ崎 ◇7月19日午後3時頃、水田地帯の休耕田でケリ幼鳥1羽、以前からこの辺りでのケリ繁殖のうわさを聞いていたが、本当だったらしい(鈴木紀雄)。

戸田市道満彩湖 ◇8月12日、ムナグロ1羽。8月23日、ショウドウツバメ9羽。8月29日、アオバト1羽(高橋達也)。

戸田市戸田公園 ◇8月28日、センダイムシクイ1羽(高橋達也)。

さいたま市白幡沼 ◇8月13日午後4時過ぎ東南岸でアカガシラサギ1羽。翌日から数日間、同時刻に観察できたが、その後出現せず(江浪功)。◇9月1日午前7時頃、道祖神のある桜の木の水面に近い枯れ枝でササゴイの♂♀が水面を眺め、餌を探していた(志賀敢)。

川越市西川越 ◇7月10日、休耕田でアマサギ4羽(佐久間博文)。

川越市南古谷 ◇7月23日午後2時頃、ムナグロ1羽、オオジシギ3羽(鈴木紀雄)。

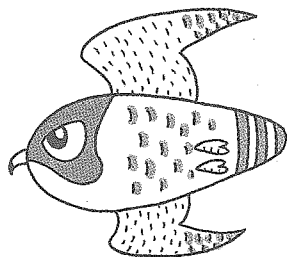
表紙の写真

シジュウカラ(スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属)

身近にいる鳥なのだが、バードウォッチングの入門時に、こんな鳥がいたのだと感動した人は多いだろう。慣れた後でも、旅先の宿にエサ台があると、つつい見とれてしまい、背の色や黒ネクタイの幅など、図鑑と同じだと妙に納得してしまう。

写真・松村禎夫(さいたま市) 文・編集部

行事あんない



(何森 要)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野（安）、永野（京）、今井、山野

見どころ：「砂のような雲が空をさらさらと流れていた」（堀辰雄）。

風清む里山に赤トンボが飛び交う。モズの高鳴きを聞きながら、鳥の渡りを観察します。タカ、キツツキ、ヒタキ類に期待。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：10月7日（日）

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園前

交通：JR 浦和駅西口バス1番乗り場より、浦和美園駅行き8：30発、または東川口駅北口行き8：38発に乘車、「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、倉林、吉岡（洋）、若林、新井（勇）

見どころ：秋の渡りたけなわ。今年はどうのような鳥に出会えるでしょうか。気の早

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

い冬鳥たちとの再会も楽しみです。調節池の工事が進んだ差間ですが、見どころはいっぱい。

ご注意：調節池の工事のためヘルシーロードコースに変更の場合があります。

さいたま市・秋ヶ瀬大久保農耕地探鳥会

期日：10月8日（月・祝）

集合：午前8時、JR 浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地（やつしまニュータウン）へ。

担当：福井、楠見、小林、倉林

見どころ：昨秋は雨で中止のため2年ぶり。春もそうだけど、雨の中止が多く、しゃれ男も雨男になってしまった。でも鳥は季節を忘れることなく渡来する。そんな秋ヶ瀬の秋へあきずにどうぞ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月14日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乘車。

担当：和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：ススキがゆれる草原、色づいた森、もう秋は真っ盛り。冬鳥たちもそろそろ到着のころです。今年も異常な暑さが続きましたが、渡りへの影響はどうでしょうか。どんな鳥に出会えるかは来てからのお楽しみ。

『しらこぼと』袋つめの会

とき：10月20日（土）午後1時～2時ころ
会場：支部事務局108号室

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月20日（土）～21日（日）
定員に達しましたので締め切りました。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月21日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅、新部
見どころ：カモたちも芝川で長旅を癒している。空にタカたちが飛んでくるような気持ちよい上昇気流が流れて、秋の鳥見日和はやってきた。モズの高鳴きに、カワセミの青の線が光っている。このすがすがしい季節にぜひ見沼へどうぞ。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月21日（日）
集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。
交通：JR高崎線吹上駅北口より、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8：52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。
担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、松本
見どころ：気持ちのよい日々が続きます。空良し、風良し、これで鳥がたくさん出てくれれば言うことなし。今年はどうやら水不足の心配は無いので、カモの第一陣はもう古墳の池で長旅に羽を休めているはずです。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月28日（日）
集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR川越線大宮8：36→川越にて8：57発八王子行きに乗り継ぎ乗車、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本（真）、中村（祐）、池永、山本（義）

見どころ：今年もタゲリは来てくれているかな。タカ類も里に出てくる時期です。水辺ではサギやカモたち、そして定番のカワセミも待っています。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月28日（日）
集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場
交通：東武日光線新越谷7：15→春日部7：29→栗橋7：54→柳生8：04着。またはJR宇都宮線大宮7：08→栗橋7：43着にて、東武日光線乗り換え。
解散：午後12時ころ、谷中村史跡駐車場。
担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分一、中里、田村、伊藤（隆）
見どころ：タカの渡りの季節です。谷中湖にもシベリヤからカモが到着しにぎやかです。湖を巡り、谷中村史跡の林で冬鳥を探します。昼食持参でお出かけください。集合時刻が1時間早まりましたのでご注意ください。

◆行事案内は4ページにもあります。

第4回カラス・シンポジウム

「とうきょうのカラスをこうして減らす・2」

日時：2001年10月14日（日）

午後1時～5時

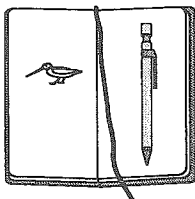
場所：立教大学5号館5122教室（豊島区西池袋、池袋駅から徒歩5分）

定員：先着100名

資料代：1000円

主催：日本野鳥の会東京支部（TEL03-5273-5141）、立教大学

後援：（財）日本野鳥の会、（財）日本鳥類保護連盟



行事報告

3月24日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 44人 天気: 晴

コガモ トビ キジバト ヤマセミ アオゲラ
アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 古い時刻を支部報に載せてしまっておめんなさい。でも遅れた人は2人のみで安心。1日それなりに楽しめたと思う。(福井恒人)

カワウ ゴイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジコチドリ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 5月の風が心地よく吹く中、スタートした。公園内では鳥影がうすく、ほとんど植物観察ですごした。園外に出ると、オオタカ、チョウゲンボウが立て続けに出てくれた。アシ原ではオオヨシキリ大合唱団が迎えてくれた。シラコバトが間近で見られ、初めて見る人は満足のようだった。カッコウの声が聞こえなかったのが残念だった。(中里裕一)

4月1日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 32人 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ トビ ノスリ サシバ チュウヒ ハヤブサ キジ オオバン コチドリ イソシギ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカバラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (49種) お天気は上々。他2カ所の探鳥会のため参加者は少な目だが、谷中湖には思った以上の残りガモがいた。野焼き前の不審火の影響で猛禽の出現が心配されたが、かえって見晴らしのよくなった焼け跡に集中して姿を現してくれた。出現鳥種も昨年を大きく上回った。(橋口長和)

5月20日(日) さいたま市 三室地区

参加者: 81人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン コチドリ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) さながらカッコウの一日。姿も声も参加者全員が堪能した。暑さを避けて代用水の西縁を歩いた。桜の葉が茂ってシジュウカラの虫取りの声が聞こえて楽しかった。チョウゲンボウもホバリングを繰り返して、これもいいものだった。すっかり緑の見沼は、これから子育ての季節。(楠見邦博)

5月20日(日) 加須市 はなさき公園

参加: 37人 天気: 晴

5月26~27日(土~日) 長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 29人 天気: 26=晴後時々雨、27=曇後晴

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ イヌワシ キジ オオジシギ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ サン

ショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (57種) スカッと好天ではなかったが、鳥見には最高のコンディション。一の鳥居では、早速キビタキが迎えてくれる。ここで見るのは久しぶりである。その後、別個体も見られ、今年はキビタキの当たり年かもしれない。その後、コサメビタキ、カラ類などを見て昼食。足元の植物にも話題が広がる。別荘地を抜けて台座法師池へ。オオヨシキリに迎えられる。翌日は3時に起床。オオジシギのディスプレイフライトが堪能できた。植物園でもキビタキが多く、なかなか姿の見られないコルリ、クロジの姿が、参道ではマミジロが高らかにさえずっている姿もばっちり観察できた。(菱沼一充)

5月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 15人 天気: 雨

カイツブリ カワウ ササゴイ コサギ カルガモ トビ イソシギ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (27種) 雨にもかかわらず15人の参加があったので、いつもどおりの探鳥会としてスタート。雨具のため鳥は見づらいが、案外多くの鳥が現れてくれる。特に、カルガモ、ツバメ、シジュウカラの幼鳥たちがよく見られ、みんなをほのぼのとした気持ちにしてくれた。(長谷部謙二)

6月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 41人 天気: 晴

カワウ ヨシゴイ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ シジュウカラ スズメ

ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 予定どおりに差間コースを歩く。調整池の工事が進んでいたが、「心配はご無用」とたくさんのオオヨシキリが歌い、水辺ではヨシゴイが飛び、コアジサシが見事なダイビングを見せてくれた。例年になく数が多いコヨシキリをじっくり観察して、上出来の30種で終了。(手塚正義)

6月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 23人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ キジ バン キジバト カッコウ ヒメアマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 今にも降り出しそうな梅雨空のためか探鳥会は当地だけにもかかわらず参加者は少なかった。カッコウの声を遠くに聞きながら歩く。今、子育ての真最中で、ツバメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、マガモの幼鳥が見られた。カッコウの幼鳥は見られなかったが、成鳥が近くで見られ満足。

(和田康男)

6月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11人

新井浩、伊藤泰一郎、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、成瀬慶一、増尾隆、渡辺嘉男

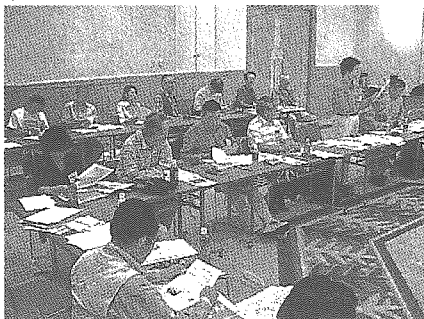
6月17日 さいたま市 三室地区

参加: 72人 天気: 晴

カワウ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ バン コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 暑い日だった。たくさんの参加者があってにぎやか。恒例の共立女子大の研修生も6名参加。カルガモの親子連れも可愛く出現した。見沼たんぼはなにもなくても緑とたんぼや畑のあいだを渡ってくる風が心をなごませてくれる。見沼たんぼは暑い夏を迎える。(楠見邦博)

連絡帳

●第25回関東ブロック協議会に出席



関東地区9支部の代表が定期的集まって情報交換やブロックとしての意思決定をする関東ブロック協議会。今年は千葉県支部の主催。9月1日(土)君津市内で開催され、当支部から海老原美夫・藤掛保司両副支部長と高文子・橋口長和両幹事、楠見邦博監事の5名が出席しました。

各支部からの近況報告、保護活動に関する意見交換などの後、次期理事候補として奥多摩支部の鈴木君子支部長を推薦することなどが決まりました。

翌2日(日)は小櫃川河口の視察が予定されていましたが、支部のリーダー研修会のために残念ながら欠席、5名とも深夜の帰宅となりました。

●第9次鳥獣保護計画などに関する話し合い
現在平成14年度からの第9次鳥獣保護計画の策定作業が全国的に進められています。

8月10日(金)、県みどり自然課の担当官が支部事務局をおとずれ、海老原副支部長と鳥獣保護区の拡大などに関する話し合いをしました。

●普及活動

8月27日(月)、総合的な学習として草加市立

青柳中学校の生徒に対し、陶山和良会員が指導しました。

●役員の辞任

高文子幹事と高剋泓リーダーご夫妻(上尾市)は、石川県に転居することになり、役員・リーダーを辞任することになりました。支部へのご尽力ありがとうございました。

●ごめんなさいコーナー

9月号8ページ袋づめの会の日付「9月15日」は、「9月22日」の間違いでした。最近3回の会に出席された方には葉書などで、その他は探鳥会などで広報につとめました。申し訳ありませんでした。

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土)11月号編集、普及部会議。

13日(土)11月号校正。

20日(土)11月号袋づめの会。

21日(日)役員会。

●会員数は

9月1日現在2,778人です。

活動報告

8月8日(水)9月号校正(海老原美夫)。

8月19日(日)役員会議(司会:田邊八州雄、関ブロ会議準備・行事予定の追加・その他)。

8月20日(月)9月号発送(倉林宗太郎)。

編集後記

三郷市北部の武蔵野線操車場跡地。今年コアジサシのコロニーが形成され、飛ぶ姿をずいぶん楽しませてもらった。しかし、そこに架かる跨線橋の撤去が始まった。橋で繁殖していたチョウゲンボウはどこに行くのだろう。(山)

しらこぼと 2001年10月号(第210号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社